

MV22オスプレイ及びあらゆる米軍機の低空飛行訓練に反対する意見書

防衛省は6月13日、米軍の新型輸送機MV22オスプレイの普天間基地配備と、日本での運用に関する環境審査の「米軍報告書」を関係自治体に提出しましたが、この中で、米海兵隊のMV22オスプレイが沖縄と本土に設定した低空飛行訓練ルートでの訓練を想定していることが明らかになりました。

オスプレイは開発段階から墜落事故が多発し、2007年の実戦配備以降でも、2010年4月のアフガニスタンでの墜落事故（4人死亡、16人負傷）や、本年4月にはモロッコでの墜落事故（2人死亡、2人重傷）、6月には米フロリダ州で訓練中に墜落し5人が負傷するなど事故が相次いでおり、その危険性が問題となっています。

また、今回の「米軍報告書」で、那賀町が低空飛行訓練ルートの1つであるオレンジルートに含まれていることがはじめて明らかにされました。

那賀町では、これまでも低空飛行訓練により、突然の爆音や墜落の恐怖に町民は怯えてきましたが、この上によりいっそう危険性が指摘されているオスプレイが加われば、その恐怖はまさに現実のものとなりかねません。

よって、本町議会は、町民の生命・財産・安心な生活を守る立場から、政府に対し、オスプレイなどあらゆる米軍機による低空飛行訓練が行われないよう強く求めるものです。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成24年9月20日

徳島県那賀町議会議長 大澤 夫左二

提出先

衆議院議長	横路 孝弘	様
参議院議長	平田 健二	様
内閣総理大臣	野田 佳彦	様
外務大臣	玄葉光一郎	様
防衛大臣	森本 敏	様